

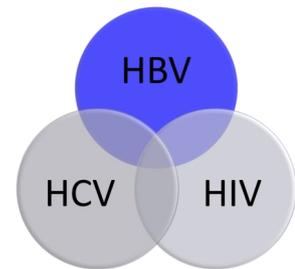


## 来年度以降の感染症検診とワクチン接種の変更について 感染制御部

職業感染とは、医療に従事する者が職務中に様々な経路で微生物に曝露し、感染・発症してしまうことを意味します。また、感染した医療者から患者さんに感染が伝播することも防止しなければなりません。私たち感染制御部は、職業感染を可能な限りゼロにすることを重要な任務の一つと位置付けて日々活動しています。中でも予防可能な職業感染として(A)体液曝露感染と(B)流行性ウイルス疾患が挙げられますが、基本的には適切な感染経路別予防策の実施と事前のワクチン接種が重要です。来年度より、抗体価測定のための感染症検診と抗体獲得のためのワクチン接種スケジュールが以下のように変更になります。

### (A) 体液曝露感染(血液媒介ウイルス感染症)

血液を含む体液に接触することで、主にB型肝炎ウイルス(HBV)、C型肝炎ウイルス(HCV)、ヒト免疫不全ウイルス(HIV)に感染するリスクが生じます。当院では、毎年の感染症検診でHBVは全職員に、HCV/HIVは希望者を対象に検査を実施してきました。HBVに関しては不活化ワクチンを接種して予防抗体を獲得しておくことが曝露時の感染予防につながる一方で、HCV/HIVについては予防ワクチンがありません。体液曝露発生時には、曝露直後に検査を行うことが大前提ですので、毎年の感染症検診でHCV/HIVのスクリーニング検査を実施する必要性は少ないと考えています。限られた感染対策費の有効活用という視点も踏まえ、来年度以降はHCV/HIVのスクリーニング検査を採用時(希望者)のみに縮小することとなりました。



### (B) 流行性ウイルス疾患 (2016年11月号のICTマンスリー参照)

麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘带状疱疹は空気感染もしくは飛沫感染をすることから、感染力の強い流行性ウイルス疾患と称され、院内感染・職業感染の観点から十分な対策が必要です。当院ではこれまで入職時のみの検査およびワクチン接種を実施してきましたが、これらウイルス感染症が社会問題化している現状を鑑み、来年度より全職員対象とした一斉検査及びワクチン接種を実施することとしました。費用・検査およびワクチン接種処理能力の都合で、来年度は麻疹・風疹、その翌年に流行性耳下腺炎・水痘带状疱疹の検査とワクチン接種を行う予定としています。

ワクチンでの予防が可能な流行性ウイルス疾患の画像

下に来年度からの新しい抗体価測定とワクチン接種の暫定的スケジュールを示します。

|      |      | 4月 | 5 | 6   | 7   | 8   | 9   | 10  | 11   | 12  | 1   | 2   | 3  |
|------|------|----|---|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|----|
| 検査   | 検診   | ■  |   | ■   |     |     |     | ■   |      |     |     |     |    |
|      | 結果報告 |    | ■ |     | ■   |     |     |     | ■    | ■   |     |     |    |
| ワクチン | 新規採用 |    |   |     | ●B1 | ●B2 | ●ウ  |     |      | ●B3 |     |     |    |
|      | 全職員  |    |   |     |     |     | ●B1 | ●B2 | ●Flu | ●ウ  |     | ●B3 |    |
|      | 中途採用 |    |   | ●B3 |     |     |     |     |      |     | ●B1 | ●B2 | ●ウ |

|       | 検診  | ワクチン接種時期                  |
|-------|-----|---------------------------|
| 新規採用者 | 4月  | HBV: 7~12月、流行性ウイルス疾患: 8月  |
| 全職員   | 6月  | HBV: 9~翌2月、流行性ウイルス疾患: 12月 |
| 中途採用者 | 10月 | HBV: 翌1~6月、流行性ウイルス疾患: 翌2月 |

インフルエンザワクチンはこれまで通り11月上旬に実施する予定としています。